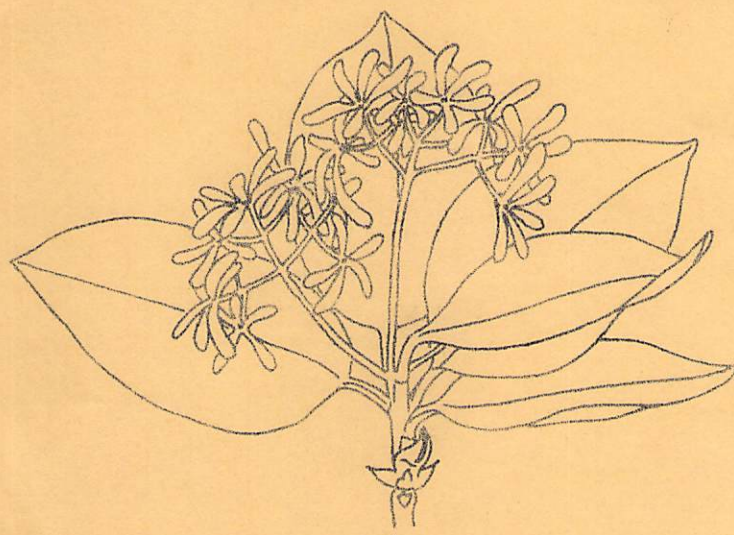


HITOTUBATAGO VOL. I NO. 1

ヒトツバタゴ



長崎県生物学会対馬支部報

April · 1978

目次

ページ

・ 創刊にあたって	支部長：長瀬 節雄	1
・ セッコクの黄花と対馬唯一の交配種		1
大博（タイハク）について	岡部 虎男	2-3
・ 厳原町植物の概要（1）（有明山）	長瀬 節雄	3-4
・ 対馬のラン科植物目録	国分 英俊	5-9
・ 対馬産ヒトツバタゴの形態について	色上 益朗	10-14
・ 対馬のトンボ（1）	境 良朗	15-18
・ 近年長崎県内で観察した蝶類生態記録	江島 正郎	19-32
・ 支部より		33-34

創刊に当って

支部長 長瀬節雄

長崎県生物学会の対馬支部として、今回会誌の発行をすることになりました。対馬という、九州の中では特異な生物相をしめすこの島の中で、我々は日々自然とともに生活している。

先に県生物学会より“対馬の生物”という大著が出版され、対馬の生物相の解明に大きな役割りを果たした。対馬のおりなす四季の中で、日夜ともにする自然現象、および生物界のことにさらに目を大きく見開き、地の利を生かした研さんをつみたいと考えている。

会員も少数で、未熟な部分も多々あると思いますが、諸氏のご叱正、ご指導を得てがんばりたいと思います。

(ながせ・せつお 巖原中学校)

セッコクの黄花と対馬唯一の交配種大博（タイハク）について

岡 部 虎 男

対馬に野生するセッコクは近年乱獲され、その数が減少している。しかし、人の手がとどかないところ、すなわち高木、あるいはガケの中腰などにはまだ相当数のものを見ることができ、自然実生でも増えていると思われるので絶滅するとは考えられない。現に、私の住家は厳原の中央に位置するが、庭のマキ、セッコクの鉢植え、古い石燈籠の上に自然に発芽し開花している。普通、野生しているセッコクの花は紫赤色から白色であるが、純白というのはまれで、ほとんどのものが花卉に赤色を残す。

今回発表するセッコクの黄花種は、昭和25年（1950）美津島町で大畑博氏が採集された野生セッコクの中から、偶然発見されたものである。黄花といつても極薄い黄色で、ちょうど秋の夜の月の色に近いので、私が明月（園芸名）と命名した。偽球茎は、はじめ緑色で、たてに紫赤色の点線が十数列あるが成長すると赤カッ色となる。満2年で花がさく。

あと一例は、私が満月と命名したもので、花色は前者とほとんどかわらないが草丈がわずかに高いようであり、花卉の先端がとがっている。これは別人により採集されたものであるが、産地および採集者名はわかっていない。このほかに、葉の変化種として黄霧輪、中透、白縞等発見されている。

セッコクの黄花については日本花卉園芸協会編「新花卉“日本野生ラン”特集第64号（1969）に古瀬光氏が“色変わりとして、黄色（杏色）花では富士山麓産および対馬産の2種しか見ていないが、いずれも草丈15cm前後の赤褐色茎で、前者は太く、後者はやや細く葉幅もいくぶん狭い。この2種は目ざめるばかりの杏色を呈する年と、にごつたクリーム色で終わる年が稀にあるが、それが何に起因するのか私にはわからない。”と書いておられるが、対馬産（明月）の採集者大畑博氏は、春にはやく咲くものほど色が濃いといつておられる。

私の観察では、その年の冬季気温に関係があるように思う。1977年は近年にない低温の年であつたが、花の色は例年になく濃い黄色であつたことから、寒さが長くつづいた年は黄色が強くなり、暖冬の年は杏色が強くなるのではないかと推察している。古瀬氏は長崎市で栽培されたものであり、対馬より平均気温が高いので杏色がつよく出たと考えている。

大博について

大博は昭和18年（1943）厳原町で大畑博氏によつて作出された。対馬の野生セッコクを母体とし、洋種 *Dendrobium nobile* Ldl を交配したもので、耐寒性と花

の美しさを目的に作出されたものである。草丈は25~30cm、花は大型で4.5~5cmで白花系に属するが、花卉の外ふちから内にかけて薄い紫赤色をほかし、萼弁の点は濃い紫赤色の斑があり、すつきりとした実に感じの良い花である。ただしセッコクのような芳香はない。大博という園芸名は、私が氏の名を永久に残すためにつけたもので、巖原では大博の名で愛好者に栽培されている。野生セッコクにくらべれば、いくらか耐寒性にとほしいが、室内、フレーム（無加温）で十分越冬し開花する。

さいごになつたが大畑博氏、古瀬光氏、セッコク愛好者に感謝致します

(おかべ・とらお)

巖原町植物の概要(1)

(有明山)

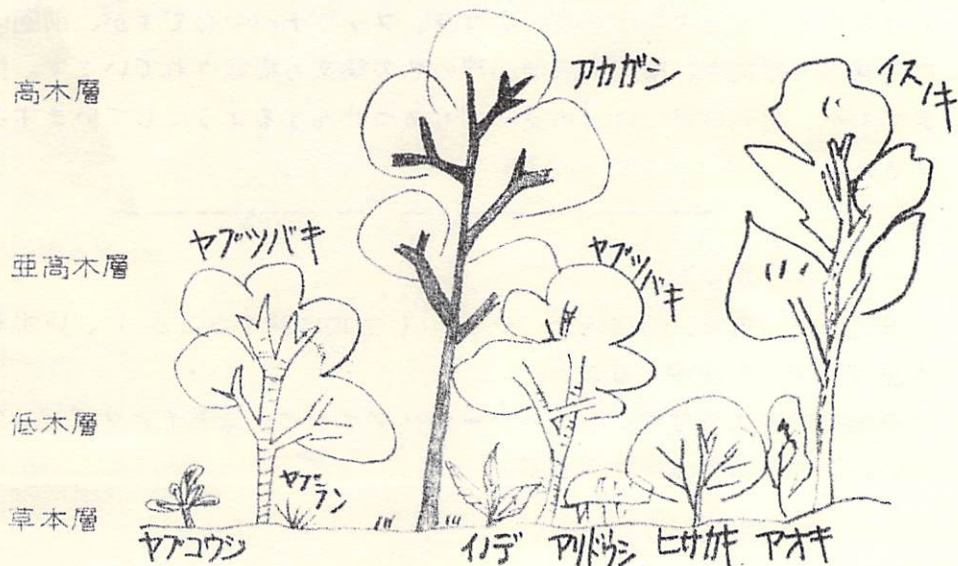
長瀬節雄

有明山(558M)は町内で矢立山(649M)、竜良山(559M)に次ぐ高山で、親しみやすい原始林を有している。

山頂は広々とした草原であり、そこからみおろす眺望は対馬一といつても過言であるまい。

登山口としては八幡神社、万松院水源地、権現山、日掛部落からと4通りのコースがある。

有明山のアカガシ、イスノキ林のつくりを観察すると下図のようになっている。



有明山に主としてみられる植物は次の通りである。

シイノキ、アカガシ、イスノキ、ウラジロガシ、オガタマノキ、クスノキ、タブヤブニッケイ、ケヤキ、アオキ、ヤブツバキ、ノグルミ、コバノガマズミ、ナナカマド、シキミ、クロキ、サカキ、ヒサカキ、カクレミノ、ガマズミ、ウチワカエデ、コバノミツバツツジ、リョウブ、エノキ、モミ、カヤ、イヌガヤ、ネズミモチ、イヌビワ、カゴノキ、ミヤマシキミ、トベラ、コショウノキ、マンリョウ、アリドウシ、モツコク、ヤマウルシ、ハゼ、ヤマサクラ、ユズリハ、ナワシログミ、ヤツデアケビ、ノイバラ、クズ、ニワトコ

チマキササ、チゴユリ、チゴササ、ムサシアブミ、ヤブラン、サルトリイバラ、ヤマノイモ、キエビネ、シュンラン、ドクダミ、コアカソ、ヤブマオ、イラクサ、イタドリ、ミズヒキ、ギンギシ、アカサ、ユキノシタ、ヘビイチゴ、ヌスビトハギ、ナワシロイチゴ、ゲンノショウコ、ヤブガラシ、スマレ、ウド、ノチドメ、ヤブコウジ、タビラコ、ナンバンギセル、ヘクソカズラ、カラスウリ、キキョウ、ノブキ、カワラヨモギ、ノアザミ、ヒヨドリバナ、ニガナ、フキ

なお、シダ植物はのぞく。

(ながせ・せつお 萩原中学校)

”香岐の生物 — 対馬との対比 — (1977)” 近刊

対馬の生物 (1976) の続刊として、上記の出版物が本部より発刊されることになっております。諸般の事情で遅延していますが、近日中に配布されることになりました。内容は香岐のフロラ、ファウナが中心ですが、前回にもれた対馬関係の報文や、福岡県宗像郡沖の島の論文も掲載されています。代金は未定ですが、発刊の際には対馬支部でもあつせんするようにしています。ご期待下さい。

〈原稿募集〉

研究報告、随筆、図書紹介、その他（生物に関すること）、いずれも400字詰原稿用紙を使用すること。

原稿の付函は原寸大にし、トレーシングペーパーに黒インクで記して送付下さい。送付先は支部事務局まで。

対馬のラン科植物目録

国分英俊

日本のラン科植物は、いま絶滅の危機にさらされている。当対馬でも例外にもれず
れず山野から、その姿を消しつつある。

対馬は、県内他地区より多くの原生林が残っており、そこに野生するラン科植
物も51種をかぞえる。これらのうち数種のはほとんど絶滅寸前であり、その
保護が早急にのぞまれる。

この目録を作成したことにより あるラン科植物の絶滅を助長させるのではない
いかということが懸念されるので、あえて自生地はふせおおまかに町名で示した。

ミズトンボ属 *Habenaria willd*

- 1、ミズトンボ *H. sagittifera* REICHENBACH fil

厳原町、上県町

ヒナラン属 *Amitostigma SCHLTR*

- 1、ヒナラン *A. gracile* (BLUME) SCHLECHTER

厳原町、美津島町

ムカゴソウ属 *Herminium L*

- 1、ムカゴソウ *H. angustifolium* (LINDLEY) BENTH, var. *longicrura*
var. *longicrura* (WRIGHT) MAKINO

厳原町、美津島町

ツレサギソウ属 *Platanthera L, C, RICH*

- 1、ツレサギソウ *P. japonica* (THUNBERG) LINDLEY

上県町

- 2、ジンバイソウ *P. florenti* FRANCHET et SAVATIER

- 3、マイサギソウ *P. mandarinorum* REICHENBACH fil

var. *neglecta* (SCHLECHTER) F. MAEKAWA

厳原町

- 4、オオバノトンボソウ *P. minor* (MIQUEL) REICHENBACH fil

厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町

オニノヤガラ属 *Gastrodia R, BR,*

- 1、オニノヤガラ *G. elata* BLUME

美津島町、峰町

- 2、アキサキヤツシロラン *G. confusa* HONDA et TOYAMA

厳原町、美津島町

キンラン属 *Cephalanthera* L, C, RICHARD

- 1、キンラン *C. falcata* (THUNB) BLUME

全島

- 2、キンラン *C. erecta* (THUNB) BLUME

巖原町、美津島町、上県町

- 3、ユウシュンラン *C. subaphylla* MIYABE et KUDO

巖原町、美津島町

カキラン属 *Epipactis* R, BR

- 1、カキラン *E. THUNBERGII* A, GRAY

巖原町、美津島町

ツチアケビ属 *Galeola* LOUR

- 1、ツチアケビ *G. septentrionalis* REICHENBACH fil

巖原町

トキノウ属 *Pogonia* JUSS

- 1、トキノウ *P. japonica* REICHENBACH fil

巖原町

- 2、ヤマトキノウ *P. minor* (MAKINO) MAKINO

巖原町、美津島町

ムヨウラン属 *Lecanorchis* BLUME

- 1、ムヨウラン *L. japonica* BLUME

巖原町、美津島町

ネジバナ属 *Spiranthes* L, C, RICH

- 1、ネジバナ *S. sinensis* (PERSOON) AMES

var. *amoena* (M, BIEBERSTEIN) HARA

全島

シュスラン属 *Goodyera* R, BR

- 1、シュスラン *G. velutina* MAXIMOWICZ

巖原町、美津島町、上県町

- 2、アケボノシュスラン *G. Maximowicziana* MAKINO

巖原町

- 3、ミヤマウスラ *G. Schlechtendaliana* REICHENBACH fil

全島

- 4、ベニシュスラン *G. macrantha* MAXIMOWICZ

上県町

- ネツタイラン属 *Tropidia* LINDL
- 1、ヤクシマネツタイラン *T. nipponica* MASAMUNE
 巖原町
- ヨウラクラン属 *Oberonia* LINDL
- 1、ヨウラクラン *O. japonica* (MAXIMOWICZ) MAKINO
 巖原町、美津島町、上県町
- ヒトツボクロ属 *Tipularia* NUTT
- 1、ヒトツボクロ *T. japonica* MATSUMURA
 巖原町、美津島町
- クモキリソウ属 *Liparis* L, C, RICH
- 1、コ克蘭 *L. nervosa* (THUNBERG) LINDLEY
 巖原町
- 2、クモキリソウ *L. Kumokiri* F, MAEKAWA
 巖原町
- 3、ジガバチソウ *L. Krameri* FRANCHET et SAVATIER
 巖原町、美津島町
- 4、ギボウシラン *L. auriculata* BLUME
 巖原町
- ガンゼキラン属 *Phajus* LOUR
- 1、ガンゼキラン *P. minor* BLUME
 巖原町
- エビネ属 *Calanthe* R, BR,
- 1、ナツエビネ *C. reflexa* MAXIM
 巖原町、美津島町
- 2、キエビネ *C. striata* R, BR
 全島
- 3、キバナキリシマエビネ *Calanthe* × *Kibanakirishima* F, MAEKAWA
 巖原町
- 4、キリシマエビネ *C. aristulifera* REICHENBACH fil
 巖原町
- ヒメトケンラン属 *Tainia* BLUME
- 1、ヒメトケンラン *T. laxiflora* MAKINO
 巖原町

サイハイラン属 *Cremastra* Lindl

- 1、サイハイラン *C. appendiculata* (D. DON) MAKINO
全島

マメツタラン属 *Bulbophyllum* THOU

- 1、マメツタラン *B. Drymoglossum* MAXIM.
厳原町、美津島町、上県町

- 2、ムギラン *B. inconspicuum* MAXIM.
厳原町、美津島町、上県町

セツコク属 *Dendrobium* SW

- 1、セツコク *D. moniliforme* (LINNAEUS) SWARTZ
全島

シュンラン属 *Cymbidium* SWARTZ

- 1、ナギラン *C. lancifolium* HOOK
厳原町

- 2、アキサキナギラン *C. javanicum* BLUME
var. *aspidistrifolium* (FUKUYAMA) F. MAEKAWA
厳原町

- 3、マヤラン *C. nipponicum* (FRANCHET et SAVATIER) MAKINO
厳原町

- 4、カンラン *C. Kanran* MAKINO
厳原町、美津島町、峰町

- 5、シュンラン×カンラン
厳原町

- 6、シュンラン *C. Goeringii* (REICHENBACH fil) REICHENBACH fil
全島

ボウラン属 *Luisia* GAUDICH

- 1、ボウラン *L. teres* (THUNB) BLUME
厳原町、上県町

ナゴラン属 *Aerides* LOUR

- 1、ナゴラン *A. japonicum* LINDENBERG et REICHENBACH fil
厳原町、美津島町、上県町

フウラン属 *Neofinetia* HU

- 1、フウラン *N. falcata* (THUNBERG) HU

厳原町、美津島町、上県町

カヤラン属 *Sarcochilus* R, BR

- 1、カヤラン *S. japonicus* (REICHENBACH fil) MIQUEL

厳原町、美津島町、上県町

カシノキラン属 *Gastrochilus* D DON,

- 1、カシノキラン *G. japonicus* (MAKINO) SCHLECHTER

厳原町

- 2、ベニカヤラン *G. Matsuran* (MAKINO) SCHLECHTER

厳原町、上県町

クモラン属 *Taeniophyllum* BLUME

- 1、クモラン *T. aphvillum* (MAKINO) MAKINO

厳原町、美津島町

参 考 文 献

- 北村四郎, 村田源, 小山 夫 (1967) 原色日本植物図鑑 保育社
長崎県博物研究会編 (1940) 長崎県植物誌
長崎県生物学会編 (1976) 対馬の生物
前川文夫 (1971) 原色日本のラン 誠文堂新光社

(こくぶ・ひてとし 今里中学校)

< 会 員 募 集 >

本会は長崎県生物学会の1支部ですが、当面、本部とは独立会計にし、会誌発行、行事、会業務を行なう予定です。各分野の研究を行なう方を広く募集し、会員相互の研さんを深めていきたいと考えております。

入会希望者は下記まで年会費1500円をご送付下さいますよう、お願いいたします。

長崎県下県郡厳原町榎原33 〒817

対馬高校内 (江島正郎 取扱)

長崎県生物学会対馬支部

モクセイ科 (Oleaceae) に属し、トネリコ *Fraxinus japonica* に似ていてしかもトネリコが羽状複葉であるのに対し、1個ずつ単葉を持つことから名付けられたヒトツバタゴ (一葉トネリコ) 属は、北米産の *Chionanthus virginiana*、タイフンヒトツバタゴ *C. serrulata*、トウヒトツバタゴ *C. Duclouxii*、ヒトツバタゴ *C. retusus* の4種が世界に分布しているが、本邦の愛知県、岐阜県、長崎県対馬にはこのうちのヒトツバタゴ *C. retusus* を産する。対馬のヒトツバタゴは二次的な移入種とされているが、対馬北部地域にのみ自生すること、5月上旬の開花景観の見事さ、他とかなり異なる樹質などから、ナンジャモンジャ、ナタオラシ、ウミテラス、ウミテラスなどと呼ばれて特産種的な扱いを受けている。分布・生態は機を別にすることとして、今回は対馬産ヒトツバタゴを形態的な面から簡単に記してみる。

1 冬芽とその成長

本種は落葉性であり秋期には落葉を完了する。この後に見られる越冬状態の冬芽は、落葉した痕が目立ち、数条のしわを伴う突出部の多いもので、灰茶色の皮色をしている。この冬芽は4月上旬になると、まず先端から春の新葉を出し始める。先端部の冬芽を失なつたものは、すぐ下の前年の落葉痕から出芽する。成長は早く、花の最盛期の5月上旬までには葉が出そろおうべく大きくなる。冬芽の成長状態は Fig. 1 に示してあるが、特に茎の先端において葉の成長の著しいのがわかる。

2 葉の形態と種類

ヒトツバタゴの葉は1年で落葉し、対生で葉柄をもつが、托葉がなく単葉である。普通葉は全縁であるが、鋸歯葉をつけるものもある。また全縁の木でも若木時には重鋸歯をつけるものが多い。一般に、葉の後縁から葉柄にかけて毛を生じ、葉柄端は赤紫色を帯びている。本種では個体によつて葉形の違いが見られる。Fig. 2 に示したが、Aは楕円形葉、Bは広側卵形葉、CとDは広披針形葉での大小、Eは鋸歯形葉である。C-Dは一般に少なく、普通はA、Bの形が多い。FとGは後縁から葉柄にかけての微毛を示してあり、Fが表面、Gが裏面である。

3 開花と花、果実の形態

Fig. 3のAは対馬高校内の両性花の開花順序であり、5月上旬—中旬の観察によるもので、最初花弁がらせん状に巻いているのがわかる。

ヒトツバタゴはよく知られているように雌雄異株であるが完全なものではない。浦田 (1977) は上対馬町鵜飼一帯の調査より、両性花 (両全花) と雄性花との生育比が1:1であると言っているように、筆者の調べた旧厳原市内の人為移植分の

結果も同じで、本種には雌性花はなく単性花は雄性花のみで、この雄性花と両性花の2種があることがわかつている。Fig. 3のBは厳原町今屋敷福島宅の両性花、Fは同今屋敷阿比留宅の雄性花を花弁を1枚除去して示したものである。これを見るとわかるように、両性花は黄緑色の柱頭をもつ樽型の雌蕊をはさんで、先端が少しがった丸型の外側にのみ花粉をつけた葯をもつ雄蕊を2本備えている。また両性花では雄蕊を3本有するものもある。単性花はすべて雄性花であるが、雌蕊がなく両生花と同じような雄蕊を2本有するのみである。

花弁は白色で普通4裂し、裂片は細長く開花始にはねじれている。両性花には4-6弁があるが、雄性花においては4弁がほとんどである。5、6弁の花はがく片や雄蕊数にも変化があり、花弁6のものにがく片6、雄蕊3個の例もあつた。Fig. 3のC、Dは上対馬町落土産の花弁裂数5枚の花とがく片である。さらにBにはその花の付き方を示した。花弁の長さ約1cm、花径2cm、がく片の長さは0.7cm程度である。

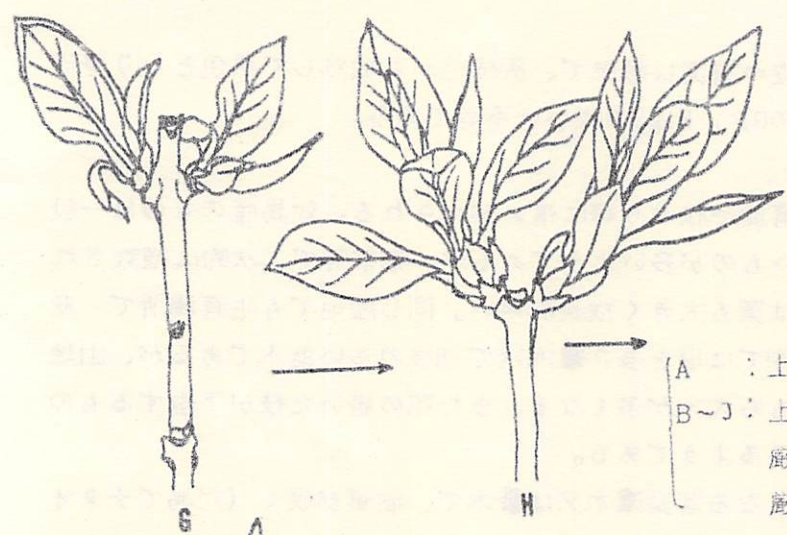
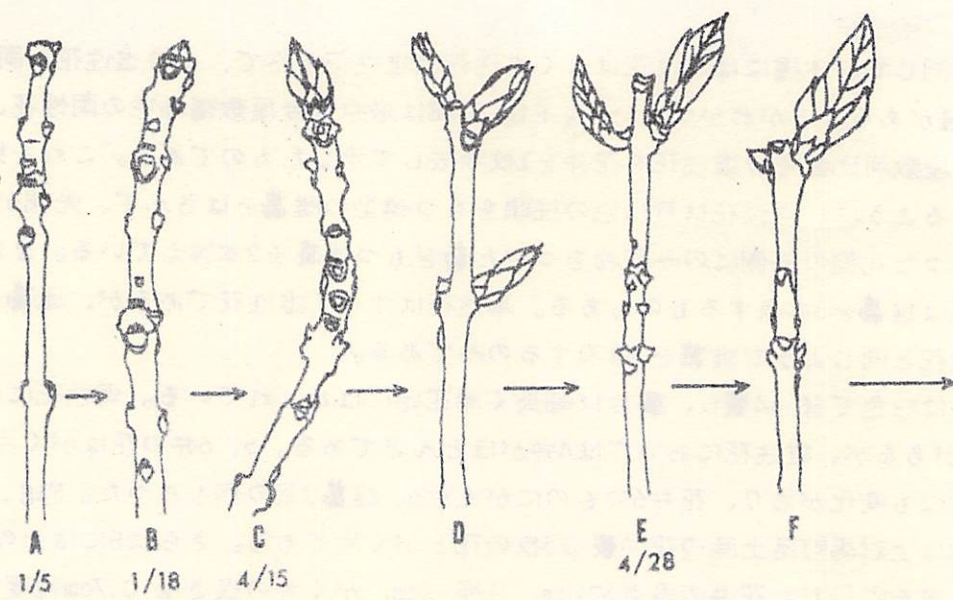
花後、特に両性花に目立つ果実は核果で、灰緑色から成熟して黒色となり普通種子を1個有する (Fig. 3のG)。Fig. 3の大小は不等である。

4 樹形について

本種は産地によつて生育度や枝ぶり等に違いが見られる。対馬産のものは一般に成長率が低く葉も小さいものが多いようであるが、東京等で二次的に植栽されている同じ朝鮮系のもは葉も大きく成長が早い。同じ産地でも生育場所で変化があり、岩の多い海岸側では根を張り灌木状で細枝の多い低木であるが、山地に向かうにつれて主幹をもち大木が多くなる。また花の着いた枝が下垂するものと直立するものの区別もできるようである。

一般に、樹高20m程にもなる落葉灌木又は喬木で、樹質が硬く (対馬でナタオラシとも言われるべく)、灰褐色の樹皮をもち、胸高径で50-60cmになる珍木で、対馬内の人為移植が多いように庭園樹として栽植しやすいものであるが、自生地における密度がそう多くないことと単性花 (雄性花) 株だけでは果実をつけないこと、さらに実生や挿し木等による繁殖がむずかしいこと、天然記念物に指定されているなど一般化の困難な問題もある。

(むらかみ・ますお 対馬高校)



A : 上対馬町落土
 B~J : 上対馬町比田勝小学校々庭
 殿原町対馬高校
 殿原町対馬高校新校舍敷地

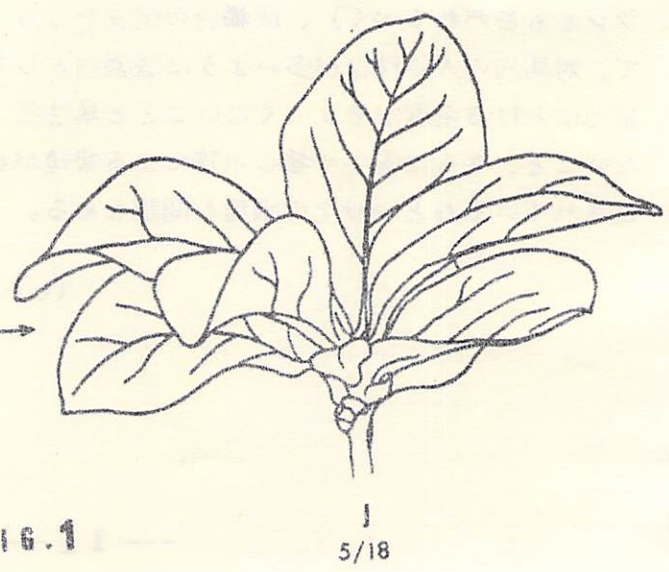


FIG. 1

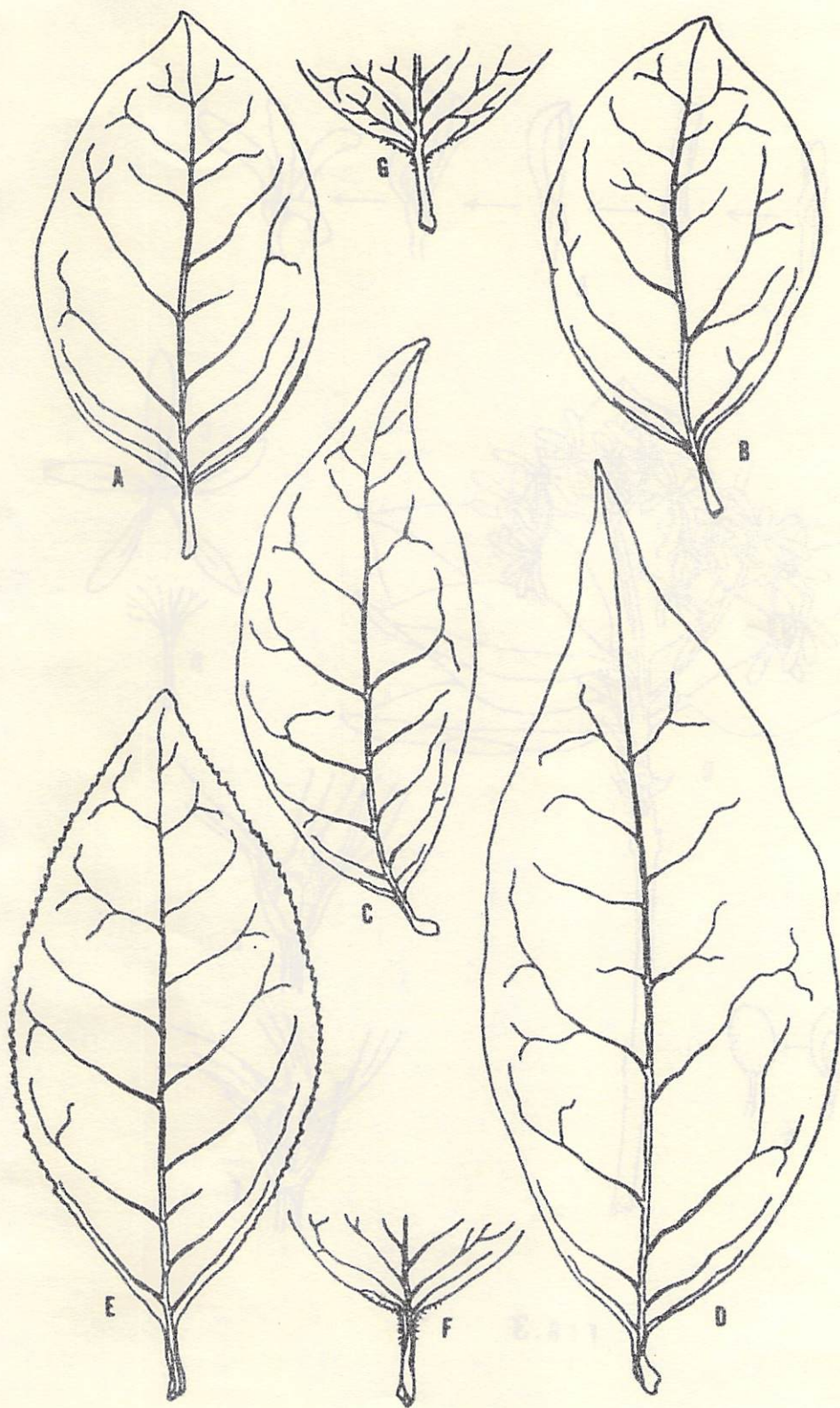


FIG. 2

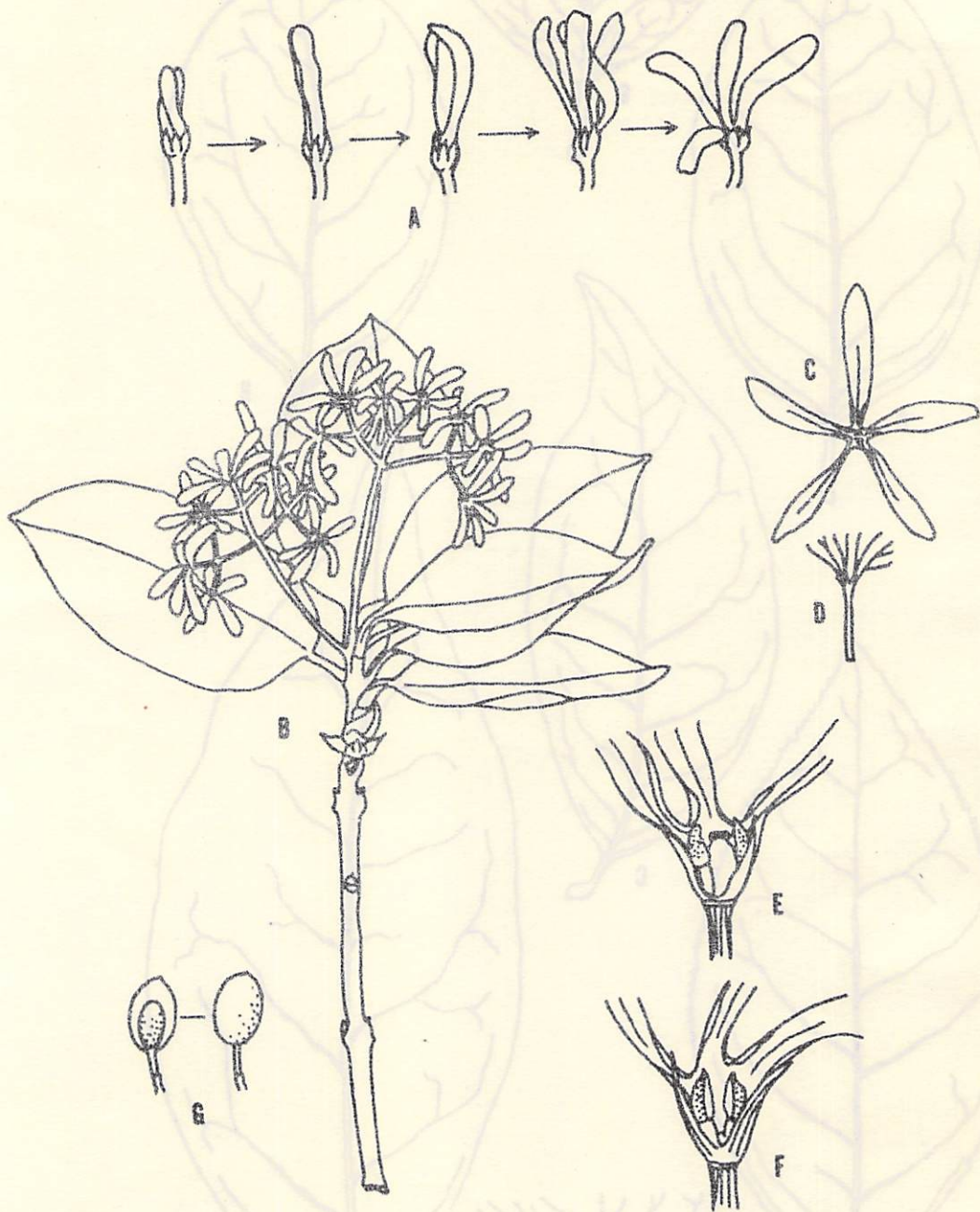


FIG. 3

対馬のトンボ (1)

境 良 朗

対馬のトンボは、ASAHINA, S, (1970) が一応の総括的なまとめを行ない38種を記録した。続いて日浦 (1976) はASAHINA (1970) からカワトンボとナツアカネの2種をギ問種として除外し、新たにリスアカネとモートンイトトンボを追加して36 (+1) [() は 述入種] とした。しかし、日浦 (1976) のリストにはASAHINA (1970) にあるモノサシトンボがあげられていない。また、池崎、浦川 (1976) は1974年と1975年に対馬で調査を行ないマルタンヤンマを、同時に吉田 (1976) もベニイトトンボとマルタンヤンマをそれぞれ追加記録した。

したがって、この時点での対馬のトンボ総種数は、遠い過去に記録がありながら再発見されないエゾアオイトトンボ (RIS, 16) ナツアカネ (BARTENEFF, 19)、標本の出所が不確かで再確認を要するカワトンボ (ASAHINA, 70)、同定にギ問が残るアオサナエ (本田, 須浪, 73) ベツコウトンボ (山下、宮永, 76) の5種を除いたイトトンボ科8種、モノサシトンボ科1種、アオイトトンボ科1種、カワトンボ科1種、サナエトンボ科2種、ヤンマ科7種、オニヤンマ科1種、ヤマトンボ科3種、トンボ科16種の40種 (述入種と考えられるハネピロトンボを含む) ということになる。

今回、新たにルリボンヤンマ (投稿中) とクロスジギンヤンマを確認することができたので、手もとにある若干の資料とともに報告したい。採集者を記していない記録は全て筆者によるものである。

AGRIONIDAE イトトンボ科

1. *Aciagrion hisopa* SELYS ホソミイトトンボ

巖原、佐須奈、内山、小茂田、今里で3月下旬から10月にかけて記録がある (ASAHINA, 70)

- 1968年8月30日 巖原 1 ♂
- 1969年4月7日 巖原 2 ♀

2. *Cercion sieboldii* SELYS オオイトトンボ

桑原 (1975) は見る機会はなかつたが、佐須奈、玉調、榎田、雑知、小浦、仁位、内山、小茂田、豆酲で5月下旬から8月上旬にかけて記録がある。(ASAHINA, 70; 池崎、浦川, 76)。

- 1968年9月8日 小茂田 11

GOMPHIDAE サナエトンボ科

1. *Davidius nanus* SELYS ダビドサナエ

対馬では唯一の小型のサナエトンボである。久原（朝比奈、57）、佐須奈、御岳、小茂田、巖原、有明山、安神、奥浅瀬、**雑知** 佐護、比田勝、仁田～飼所、目保呂、竜良山、大星山、白岳など（ASAHIINA、70；浦田、70；日浦、76）、全島に広く分布している。日浦（1976）は、“成虫の発生期は短いので6月以外は見られないが、……”と述べているが、4月下旬～6月下旬にわたって採集されている

・1969年4月28日 巖原 1♂1♀

2 *Sisboldius albardae* SELYS コオニヤンマ

対馬では比 小茂田、巖原、有明山、白岳、**檜田**、御岳などで7月下旬から10月下旬にかけて記録がある。（ASAHIINA、70；日浦、76；池崎、浦川、76など）。

・1977年8月28日 豆 齏 2exs

AESCHNIDAE ヤンマ科

1 *Gynacantha japonica* BARTENEFF カトリヤンマ

対馬では比較的少ないと思われ、巖原で1♀（ASAHIINA、70）と佐須奈（桑原、75）で記録があるにすぎない。下記の個体はやぶの中から飛び出してきたものである。

・1977年8月29日 巖原後山 1♂

2 *Polycanthagyna melanictera* SELYS ヤブヤンマ

本種も前種と同様あまり得られていない。大船越（池崎、浦川、76）檜滝（吉田、76）豆 齏（浦田、70）**雑知**、巖原、佐須奈（ASAHIINA、70）で6月下旬から8月上旬にかけて記録がある。

・1969年7月11日 巖原 1♂

3 *Anax nigrofasciatus* OGUMA クロスジギンヤンマ

対馬未記録種。たんねんに探せばもつとみつかるのと思う。同属のオオギンヤンマも長崎県本土の松浦市付近で採集されているので今後、対馬でも発見される可能性がある。

・1977年5月25日 美津島町濃部 1♂ 松永康範氏採集

4 *Aeschna juncea* LINNAEUS ルリボシヤンマ

詳細については「宍岐の生物」に投稿中なので、ここではデータのみ記録しておく。

・1977年8月28日 巖原町宮谷 1♂

・1977年9月1日 美津島町濃部 1♂ 長島允子氏採集

CORDURIIDAE エゾトンボ科

1 *Somatochlora clavata* OGUMA ハネビロエソトンボ

日本でも産地は局地的である。稀な種で過去4頭(1♂3♀)の記録がある。①1966年7月20日 雄知1♀ 8月10日 鷄知1♂(浦田、70) ②1970年7月22日上見坂1♀テネラル(日浦、76) ③1975年7月31日 豆酸1♀(池崎、浦川、76)。

海岸近くの水たまりに飛来したものを採集したが、尾端には卵塊が付着していた。かなり古びた個体であるので、成虫の発生期は10月上旬ごろまでと思われる。

• 1977年10月9日 豆酸西浦 1♀

なを、対馬のエソトンボ科のもう一種タカネトンボは厳原で1♀(Asahina、70)しか記録がないようであるが、過去に筆者の自宅で多数発生しているのを観察したことがあるので付記しておきたい。この井戸は縦、横1m、深さ4mほどで、夏期、羽化の多くは水面上1m~1.5mで夜半から明け方にかけて行なわれてようであった。

LIBELLULIDAE トンボ科

1 *Orthetrum albistylum speciosum* UHLER シオカラトンボ

全島に分布し、夏期に普通のトンボであるがオオシオカラトンボよりは少ない。

• 1968年9月8日 小茂田 1♂

2 *Orthetrum japonicum internum* MACLACHLAN タイワンシオヤトンボ

本種はシオヤトンボのアジア大陸亜種で対馬だけから知られる。生態的な知見はほとんど記録されていないので、1977年美津島町和板で調査したことを書いてみたい。発生地は川すじよりも1段高い広さ3aほどの止水性の湿地で、脱皮殻も水面上10cmの植物の葉上で見つかった。産卵はおもに午前中に多く行なわれ連結した♂と♀が離れると♀は単独の連続打水産卵に移り、♂はその上空でびつたりよりそのような感じて警護飛翔を行なった。また♂は発生地をそう遠く離れることはなく♀が現われると一勢に追飛して交尾をしようとした。なわばりらしきものを形成するもののそれほど強いものではない。タイワンシオヤトンボ(♂)×ハラビロトンボ(♀)の異種間交尾と思われる1対を目撃採集したが♀がテネラルな個体であり、標本も現在佐賀の吉田喜美明氏のもとにあるので確認するに致っていない。

3 *Crocthemis servilina* DRURY ショウジョウトンボ

仁位、小浦 玉調、佐須奈、檜田、豆酸で5月下旬から8月にかけて記録されている(Asahina,70;浦田、70;池崎・浦川、76)。

• 1976年10月4日 豆酸 1♂

4 *Sympetrum striolatum imitoides* BARTENEFF タイリクアカネ

志多留、豆酸~小母崎、奥浅藻、大船越、厳原、豆酸~美女塚、比田勝、仁位

賀谷、目保呂などで6月上旬から10月下旬にかけて記録されている。(Asahina, 70; 日浦、76; 池崎・浦川、76)。

- 1968年8月31日 敵原 1 ♂
- 1969年6月14日 敵原 1 ♂
- 1969年9月8日 小茂田 1♂1♀

5 *Sympetrum frequens* SELYS アキアカネ

7月から10月下旬にかけてもつとも普通に見られるアカトンボである。日浦 (1976) は“・・・朝鮮半島で越夏したものが秋季対馬に海洋移動する可能性も検討する必要がある。・・・”と考えているが、真夏でも平地に比較的多く見られるので筆者はmigrate説は支持できないが、一部migrateしている可能性もなきにしもあらずで、今後の調査に待ちたい。

末尾ながら日ごろから採集に協力いただいている養和小中学校の松永康範、長島允子の両氏には厚くお礼申し上げます。

(さかい・よしあき 養和小学校)

交尾飛翔数例の記録

境 良朗

(1) モンシロチョウ

1976年4月26日 竹敷 1対

交尾飛翔中のペアを発見。キャベツ畑の上を飛んでいたが次第に高度をあげて最高地上約5mほどを、少なくとも30秒以上は交尾飛翔を続けた。

(2) ミドリヒョウモン

1976年9月18日 雑知 1対

ブドレアから飛びだし地上3mほどを飛んだ後、地面のジャリに止まる。強制的に飛ばすと ← ♀ + ♂ で飛翔した。♀はかなりの破損体で早もさほど新鮮とは思われない。

(3) アゲハ

1976年9月18日 雑知

本種の過去の観察記録は、♀ + ♂ を常としていて例外的な記録はないという。♂はボロボロでこのような個体にも交尾能力があるのかと思われた。♀は新鮮体で♂の飛翔中ずっと翅を表返しのかっこうにしており、何らかの原因で♀が飛ぶことができず、♂が代役を務めたのかも知れない。

(さかい・よしあき 養和小学校)

近年長崎県内で観察した蝶類生態記録

江島正郎

現在、長崎県生物学会・長崎昆虫同好会が中心となり、“長崎県の蝶—その分布と生態—”(1973)の続刊ともいえるべき“長崎県の蝶の生活”なる書籍の出版準備が進められている。この書編さんの基礎資料として、筆者が近年観察した生態記録をまとめてみた。ただし1973年度分は江島(1974, 染色体(22): 2-10)、1974年度分は江島(1975, 染色体(24): 2-10)に、また生態上特筆すべきものについては折りにふれて記してきたので、これらについては一切ふれていない。また、交尾飛翔習性、交尾拒否行動、吸水、pumping等についても別にまとめる予定であるので、削除した。

凡例

- 1 観察記録は1976年度までのものが大半であるが、一部1977年度のものも含まれている
- 2 観察地は長崎県下である
- 3 採集月日、採集地の次に植物名を記している時には、その種の訪花植物を表わしている
- 4 種の個体数もしくは性の次に()内に、その個体の新旧度を示した。ただし

非常に新鮮な個体 : IV

新鮮な個体 : III

やや汚損した個体 : II

非常に汚損した個体 : I 以上である

1 壱岐の記録

1 キマダラセセリ

76、8、11 壱岐郡勝本町辰の島 ダンチクの若葉の先端 $\frac{1}{2}$ の部分と、先端とにかみ傷を入れ、内側にまけて造巣している3令幼虫2exs採集(別々の葉)。共に頭部は葉の基部を向いていた。

2 ウラナミンジミ

76、8、11 勝本町辰の島 1♀(II)がハマナタマメの蕾に産卵しようと、腹部をまけては飛び回る行為がみられたが、卵を確認できなかった。

3 シルビアシジミ

76. 8. 10 芦辺町八幡兵 カタバミ 多数

4 フロツバメシジミ

76. 8. 10 芦辺町八幡兵 カタバミ 多数

2 長崎県本土の記録

1. ダイミョウセセリ

75. 5. 25 多良山系とどろきの滝 ウツギ lex (IV)、鳥ふんより吸汁
lex

6. 1 " " エゴノキ lex (II)、ウツギ lex
(II)

77. 6. 4 " 黒木郷 スイカズラ、ウツギ 少数 (II)

2 アオバセセリ

75. 5. 17 西彼杵郡大瀬戸町河通ダム ナツミカン 1舎

5. 18 多良山系とどろきの滝 エゴノキ 多数

5. 25 " 五家原岳 アキグミ 1舎

8. 10 五島若松島 龍観山 ヤマビワの葉裏に多数の卵、卵殻が認められた。1本(高さ2mほど)の木から、1枚の葉について1卵産付されたもの 13例、2卵 8例、3卵 2例、4卵 1例、6卵 1例、計45卵が、別の木(高さ3mほど)から 各々 1卵3例、3卵2例、8卵 1例、9卵 1例、1卵【葉表】 1例、計27卵であった。

3 キマダラセセリ

75. 6. 12 島原市島原農業高校付近 ヒメジョオン 1舎

7. 2 長崎市こしき岩 マサキ lex

76. 6. 27 多良山系五家原岳 シロツメクサ lex (II)

4 オオチャバネセセリ

76. 7. 19 南高来郡田代原 ウツボグサ 2舎 (IV)

5 チャバネセセリ

75. 5. 17 西彼杵郡大瀬戸町河通ダム ナツミカン 1舎 (IV)

5. 20 福江市福江空港 アサミ lex (IV)

77. 10. 10 " 島富江町 ソバ 多数 (II-III)

6 イチモンジセセリ

68. 9. 12 長崎市小江原町 ヒヨドリバナ lex

15 " " ヒメジョオン lex

72. 9. 5 " 彦山 シバハギ lex

75. 5. 17 西彼杵郡大瀬戸町河通ダム ナツミカカン 1♂ (IV)
 5. 20 福江市福江空港 ウンシュウミカン lex (IV)
 9. 26 長崎市城ノ古~~跡~~ キツネノマゴ lex
 77. 10. 10 福江島富江町 ソバ 多数 (II-III)

7. クロセセリ

72. 8. 23 長崎市宮~~摺~~ lex ツユクサ

8. ジャコウアゲハ

68. 5. 4 (AM8:30) 長崎市小江原町 スイカズラ lex
 7. 22 長崎市小江原町 ネム lex
 7. 25 " " ネム lex
 72. 7. 7 " こしき岩 トベラ lex
 75. 5. 3 東彼杵郡竜頭泉 ツツジsp、(ピンク) 1♀、ツツジsp (淡いピンク) 1♀
 5. 17 西彼杵郡大瀬戸町河通ダム ナツミカン 1♂ (I)
 5. 18 多良山系とどろきの滝 エゴノキ 1♀
 5. 25 " 五家原岳 アキグミ 1♂
 6. 9 長崎市中里町 オオバウマノスズクサに4令幼虫 lex
 7. 3 " こしき岩 ネムノキ lex (IV)
 7. 3 " 中里町 ネムノキ lex
 8. 10 五島列島若松島 カラスザンショウ lex
 76. 5. 6 長崎市西山町 ツツジsp、(ピンク) lex
 5. 8 多良山系黒木郷 アキグミ lex (IV)
 77. 8. 19 福江島富江町 クサギ 多数 (IV)

9. アオスジアゲハ

68. 5. 2 長崎市西山町諏訪神社 クスノキ lex
 7. 12 " 岩屋山 1♂吸水
 9. 6 " 住吉町 1♂吸水
 72. 7. 7 " こしき岩 トベラ lex
 75. 5. 17 西彼杵郡大瀬戸町河通ダム 6♂吸水 (IV)
 5. 17 " " " ナツミカン 多数
 5. 20 福江市福江空港 ウンシュウミカン 多数 (III-IV)
 6. 1 多良山系とどろきの滝 エゴノキ lex
 8. 9 五島列島中通島三王山 1♂吸水

76. 5. 8 多良山系黒木郷 ツクシウツギ lex (IV)
 8.18 島原市眉山 ウド、カラスザンショウ、リュウブ 多数 (III)
 77. 8.16 長崎市岩屋山 タブノキの2枚の葉表に老熟終令幼虫2exsがみられた。
 8.18 福江島富江町 クサギ 多数 (II)
 8.18 " " ホソバタブの葉表で卵殻1個(田代博人氏)と、
 タブノキの葉裏で1卵(田代氏)、3令幼虫 lex採集
 10.10 福江島富江町 ソバ 多数 (I-II)

10 ミカドアゲハ

68. 5. 2 長崎市西山町諏訪神社 クスノキ lex

11 キアゲハ

68. 5. 2 長崎市西山町諏訪神社 クスノキ lex
 72. 8.17 多良山系金泉寺 ミツバに終令幼虫 lex
 75.10.10 福江島富江町 ソバ、ヒャクニチソウ 多数 (II-III)
 75. 5. 20 福江島福江空港 ウンシュウミカン lex

12 アゲハ

68. 5. 2 長崎市西山町諏訪神社 クスノキ lex
 5.15 " 住吉町 クスノキ lex
 6. 1 " " 1令吸水
 7.27 " 小江原 ダリア lex
 8.30 " " ヤブガラシ lex
 72. 8.23 " 宮摺 多数吸水
 75. 4. 6 西彼杵郡外海町黒崎 pm.2:00 1頭の♀(IV)がナツミカンの回りを飛び回っていたら、翅をバタバタさせながら小枝先端にある新芽付近にとまり、尾端を曲げて1卵産付した。
 4.20 長崎市中里町 スイートピー(白) lex (IV)
 4.30 " 西山町 ツツジsp (ピンク) 1令
 5. 7 " " ナツミカンで卵少量発見できた
 5.17 西彼杵郡大瀬戸町河通ダム アサミ 1♀(II)
 5.19 長崎市中里町 ナツミカンで2例幼虫2exs、カラスザンショウで2令幼虫2exs発見。
 5.20 福江市福江空港 ウンシュウミカン lex (I-II)
 6.22 長崎市岩屋山 ナツミカンに前蛹lexがみられた。

75. 7. 1 長崎市西山町 ネズミモチ 1ex
 7. 3 " こしき岩 ネムノキ 1ex (IV)
 76. 6.25 長崎市西山町 pm 3:15 床屋の回転表示機に♂が3回接近をこ
 ころみたが、飛びさつた。
 8.18 島原市眉山 ウド、カラスサンショウ 多数 (I-III)
 8.22 長崎市中里町 ハナトラノオ 1ex
 77. 8.18 福江島富江町 クサギ 多数 (I)
 10.10 " " ソバ 多数 (II-III)

13 オナガアゲハ

68. 8. 2~6 雲仙ゴルフ場 ノリウツギ 多数

14 クロアゲハ

72. 7. 7 長崎市こしき岩 トベラ 1ex
 75. 5.17 西彼杵郡大瀬戸町河通ダム 多数 ナツミカン
 7. 1 長崎市西山町 ネズミモチ 1ex (I)
 5.20 福江市福江空港 ウンシ ウミカン 多数
 76. 5. 6 長崎市西山町 ツツジsp、(ピンク) 少数
 5. 8 多良山系黒木郷 ツツジsp、(赤) 少数 (IV)
 8.22 長崎市中里町 ハナトラノオ 少数
 9.23 " 岩屋山 クサギ 1ex
 77. 6. 4 多良山系黒木郷 スイカズラ、ウツギ 多数
 8.18 福江島富江町 クサギ 多数 (I-II)
 10.10 " " 吸水 1♂ (IV)

15 ナガサキアゲハ

68. 7. 28 長崎市住吉町 オニユリ 1ex
 75. 5. 7 長崎市西山町 ナツミカンで卵3個発見
 6. 29 " " ネズミモチ 1♂ (IV)
 7. 1 " " " 1♂ (IV)
 7. 11 " " " 1♂ (III)
 76. 5. 6 " " ツツジsp、(ピンク) 3♂

16 モンキアゲハ

68. 5. 2 長崎市住吉町 1♂がpm.5:00 に路上より吸水
 5. 12 " " アザミ 1ex、キンセンカ 1ex
 5. 17 西彼杵郡大瀬戸町河通ダム ナツミカン 1ex (IV)

68. 5. 20 福江市五島空港 ウンシュウミカン 多数 (Ⅲ-Ⅳ)
 5. 25 多良山系とどろきの滝 シロツメクサ lex (Ⅲ-Ⅳ)
 5. 31 長崎市金比羅山 スイカズラ 多数 (Ⅱ)
 76. 8. 22 " 中里町 ハナトラノオ 少数、クサギ lex
 9. 23 " 岩屋山 クサギ lex (Ⅰ)

17 カラスアゲハ

68. 6. 22 長崎市小江原町 クチナシ lex
 75. 5. 20 福江市五島空港 ウンシュウミカン 多数 (Ⅰ-Ⅱ)
 5. 25 多良山系とどろきの滝 シロツメクサ 1♂
 76. 7. 18 南高来郡千々石町 1♂吸水

18 ミヤマカラスアゲハ

76. 5. 9 多良山系黒木郷 ツツジ sp. (ピンク) 1♀

19 キチョウ

68. 7. 11 長崎市小江原町 ♀が葉にとまり、♀がそれにぶら下がって静止 (交尾) していた。
 6. 5 " " 1♂吸水
 72. 8. 23 " 宮 檜 3♂吸水
 9. 5 " 彦山 シバハギ lex
 6. 18 " 住吉町 ネムノキの葉上で幼虫 3exs, 卵多数採集
 75. 6. 30 " 中里町 pm. 9:00に1頭の ♀(Ⅰ) が蛍光灯に飛来
 6. 9 長崎市中里町 コゴメハギで幼虫 lex、卵多数採集
 6. 14 " 金比羅山 ヤハズソウに1卵
 6. 29 " こしき岩 ウツボグサ lex (Ⅳ)
 8. 9 五島列島中通島三王山 イヌサンショウ 1♀
 76. 8. 16 長崎市岩屋山 4♂が集団吸水
 8. 21 " " 1♂吸水
 8. 22 " 中里町 1♀がネムノキの葉表に4卵産付していた。
 77. 8. 10 長崎市中里町 マルバハギの葉表に1♀(Ⅱ) が 1卵産付
 付近
 8. 16 " 岩屋山 10♂以上が集団吸水していた
 8. 18 福江島富江町 ミヤコグサの葉裏に1卵、葉表に3令幼虫
 lex (田代博人氏)、1令幼虫lex (田代博人氏) があつた。
 77. 8. 21 多良山系五家原岳 ネムノキの小葉表に7卵、葉裏に3卵が産
 付されていた
 77. 10. 10 福江島富江町 ソバ 多数 (Ⅰ-Ⅱ)

20 ツマグロキチョウ

75. 6. 29 長崎市こしき岩 ウツボグサ lex (IV)
 7. 2 " " ウツボグサ lex (I)

21 モンキチョウ

75. 3. 23 長崎市中里町 アブラナ lex (IV)
 4. 7 " 滝の観音 レンゲ lex (IV)
 5. 25 多良山系とどろきの滝 シロツメクサ 1♂ (IV)
 6. 7 大村市小路口郷 カタバミ、ムラサキカタバミ lex (IV)
 6. 14 長崎市金比羅山 ヒメジョオン 多数 (II)
 76. 6. 20 " 中里町 1♀ (I) がシロツメクサの葉表にとまり
 尾端をまけてはとび上がっていたので注意していた (pm.1:35)
 近づくると飛び上り、シロツメクサの群落上を2回ほどせん回し
 て飛び去った。近くをみると、シロツメクサ上に1卵みられた。
 77. 6. 5 多良山系金泉寺 シロツメクサ lex (IV)
 10. 10 福江島富江町 ソバ 多数 (II-III)

22 モンシロチョウ

68. 5. 26 長崎市住吉町 キンセンカ lex、アジサイ lex
 6. 4 " " 1♂吸水
 6. 5 " " 1♂吸水
 6. 3 " " アサミ lex
 6. 19 " " クズ lex
 6. 22 " 小江原町 クズ lex
 6. 23 " 住吉町 アサミ lex
 7. 1 " " アサミ lex ヤブジラミ lex
 7. 3 " 小江原町 ヤブジラミ lex
 7. 12 " 岩屋山 ヒメジョオン lex
 7. 22 " 小江原町 アサミ lex
 7. 23 " 西北町 ミヤコグサ lex サクラソウ lex
 72. 7. 7 " こしき岩 ウツボグサ lex
 75. 3. 21 " 中里町 1♂ (IV) が12h 58mに翅を45°に開いてアン
 テナを前につき出してアブラナから吸蜜していた。約3秒間か
 くて口吻を伸ばしては移動していた。
 3. 23 長崎市中里町 アブラナ 多数 (III-IV)

75. 4. 6 西彼杵郡外海町黒崎 虫が翅を30ほどひろげてアンテナを前につき出し、脚を縮めて日光浴をしていた。ただし翅は太陽の方を向く（最も光が当たる）ようにしていた。
4. 6 " " 新地 ダイコン lex
4. 6 " " 黒崎 エンドウ (白) 1♀ (IV)
ダイコン 1♂ (IV)
4. 7 長崎市滝の観音 アブラナ 1♂ (III) ダイコン 1♂ (III)
5. 17 " 三重田 ムラサキカタバミ 1♂、ナツミカン 1♂
5. 17 " " 1♀がダイコンの葉裏に1卵産付
5. 20 福江市五島空港 ウンシュウミカン lex
6. 1 多良山系とどろきの滝 ウツギ lex、エゴノキ 1♀
6. 7 大村市小路口郷 ムラサキカタバミ lex (I)
ママコノシリヌグイ lex (I)
6. 9 長崎市中里町 クヌギ lex
6. 14 " 金比羅山 ネズミモチ 多数
76. 4. 4 " 滝の観音 ダイコン 多数、アブラナ 少数
4. 7 多良山系黒木郷 アブラナ 多数
6. 26 長崎市こしき岩 ヘビイチゴ (ピンク) lex
6. 27 多良山系五家原岳 シロツメクサ 多数 アサミ 多数
77. 6. 5 " 金泉寺 アサミ lex
10. 10 福江島富江町 ソバ 多数 (III-IV)
- 23 スシグロチョウ
77. 6. 5 多良山系金泉寺 1♂ 吸水
6. 4 " " イヌガラシから多数の卵が発見された
- 24 ムラサキシジミ
72. 12. 4 長崎市住吉町 1頭が3:05~3:10に翅をメダケの上で拡げてとまり、日光浴をしていた。当日は天気がよく、非常に暖かった。
75. 5. 31 長崎市金比羅山 アラガシの葉を内側に丸めて造巢し、その中で葉の先端を尾部にし、葉柄の方をむいて静止している4令幼虫が見つかった。この幼虫にはアリsp、lexが来ていたが、lactatingしていたかは不明である。
8. 9 五島列島中通島三王山 ヤナギウラジロガシ (ウラジロガシ)

の1変種)の頂芽基部に卵殻1個がみつかった

76. 8. 21 長崎市岩屋山 1♀がアラガシの葉上におり、しばらく(10秒)静止したのち、1cm歩いて新芽の所へ行き、尾端を曲げて1卵産付、飛び去った。

77. 8. 18 福江島富江町 アラガシの新芽に4卵産付されていた。

8. 19 長崎市西山町 アラガシの葉裏と新芽(若葉)に4令1ex、3令1ex、2令1exがいた。

10. 10 福江島富江町 ソバ 少数(Ⅱ)

25 ムラサキツバメ

77. 10. 10 福江島富江町 1♂(Ⅱ)

26 トラフシジミ

75. 5. 5 多良山系とどろきの滝 ウツギの葉裏で1卵

5. 18 " " ウツギで4令幼虫、3卵

5. 25 " " ウツギで1卵

6. 10 雲仙普賢池 タンナサワフタギ 1♀(Ⅰ)

27 ベニシジミ

68. 5. 10 長崎市住吉町 Am8 10に1頭の本種が翅を拡げ(約50°)、ススキの葉上で休眠していた

6. 22 " 小江原町 キク科sp. 1ex

7. 1 " 住吉町 ヤブジラミ、マーガレット、ニンジン、イタドリ 各1ex

7. 3 " 小江原町 ヨモギ 1ex

7. 12 " 岩屋山 ヤブジラミ 1ex

75. 4. 6 西彼杵郡外海町神浦ダム付近 1♂(Ⅳ)がアンテナを前に突き出し、翅を90°ほど開いて日光浴していた。

4. 7 長崎市滝の観音 ダイコン 1♂(Ⅳ)

6. 9 " 中里町 ヒメジョオン 多数(Ⅳ)、クヌギ 多数(Ⅳ)

6. 10 島原市島原農業高校 ヒメジョオン 1ex

6. 14 長崎市金比羅山 ヒメジョオン 多数、ネズミモチ 多数

7. 2 " こしき岩 ネムノキ 多数(Ⅳ)

7. 4 " 岩屋山 ヒメジョオン 1ex

7. 12 " こしき岩 ヤブジラミ 1ex

76. 3. 21 長崎市中里町 アブラナ 1 令
 4. 4 " 滝の観音 アブラナ 1 令 (IV)
 4. 22 " 金比羅山 ウマノアシガタ 1 号 (IV)
 5. 8 多良山系黒木郷 ウマノアシガタ 多数、レンゲ 多数 (III)
6. 27 " 五家原岳 ヒメジョオン 1ex
 8. 18 島原市眉山 ヒメジョオン 1ex (IV)
 77. 10. 10 福江島富江町 ソバ 少数 (IV)
- 28 ゴイシシジミ
 75. 6. 22 長崎市岩屋山 ススキの葉裏のタケノアブラムシ群生部で2令幼虫1ex採集
- 29 ウラナミシジミ
 72. 6. 25 長崎市住吉町 シロツメクサ 1 令
 76. 6. 27 多良山系五家原岳 アサミ 1 令 (I)
 77. 8. 18 福江島富江町 ハマナタマメに終令幼虫1ex、卵15卵が見出された (花卉)
 10. 10 " " ソバ、ヒャクニチソウ 多数 (II-IV)
- 30 ヤマトシジミ
 68. 5. 15 長崎市小江原町 カタバミ1、キイチゴ 1ex
 6. 29 " " 雨の中であつたが、ヤブジラミの花上で2exs花上で体を斜めにして雨をさけているもの3exs、ススキの葉裏に3exsがいた。
 72. 9. 15 " 住吉町 アオシソ 1ex
 75. 5. 17 西彼杵郡大瀬戸町河通ダム シロツメクサ 多数 (I)
 5. 17 長崎市三重田 カタバミ 1 令
 8. 10 五島列島若松島龍観山 クサギ 1ex
 77. 8. 17 福江市住吉神社 カタバミの葉裏に卵殻、卵が10個以上、1令幼虫2exs、2令幼虫1exがいた。そのうちの1令幼虫は葉の裏に静止し、葉の先端より1mm付近と、小葉の基部から1mmの間に糸の束をかけて造巢していた。
 10. 10 福江島富江町 ソバ 多数 (III-IV)
- 31 シルビアシジミ
 77. 8. 18 福江島富江町 ミヤコグサから2~3令4ex、3令1ex (以上田代博人氏) 2令1ex、卵10数個 (田代氏)、7卵が発見された。

32 ルリシジミ

68. 5. 29 長崎市住吉町 1♂吸水
 6. 7 " 小江原町 コンテリキ lex
 6. 8 " " ネム lex
 72. 8. 26 " 住吉町 1♂吸水
 75. 5. 3 東彼杵郡竜頭泉 3♂鳥フンより吸汁
 4. 6 西彼杵郡外海町黒崎 1♂吸水 (IV)
 4. 27 長崎市中里町 シロツメクサ lex
 5. 25 多良山系とどろきの滝 1♂(I)吸水
 76. 3. 15 長崎市西山町 lex (IV) がクスノキのつぼみの近くを飛び
 時折りその近くにおりていたが、吸蜜していたかは不明である
 9. 23 " 岩屋山 1♂吸水 (IV)
 77. 10. 10 福江島富江町 ソバ lex (II-III)

33 スギタニルリシジミ

76. 4. 7 多良山系黒木郷 2♂(IV) が、しめつたコケから吸水

34 サツマシジミ

75. 5. 3 東彼杵郡竜頭泉 1♂鳥フンより吸汁
 5. 17 西 " " 大瀬戸町河通ダム 3♂吸水
 5. 25 多良山系とどろきの滝 サンゴジュの花より4卵、1卵殻を採
 集
 5. 31 長崎市西山町 サンゴジュで4令幼虫2exs、脱皮殻4個を採集

35 ツバメシジミ

68. 5. 15 長崎市小江原町 スズメノエンドウ 1♀
 6. 22 " " イタドリ lex
 75. 4. 6 西彼杵郡外海町黒崎 カラスノエンドウ 1♀(IV)
 76. 6. 27 多良山系五家原岳 シロツメクサ lex (IV)

36 クロツバメシジミ

68. 7. 12 長崎市小江原町 ヤブジラミ lex
 8. 18 " 風頭山 ヤブガラシ lex
 75. 6. 7 大村市小路口郷 メノマンネングサで3令幼虫lex

37 ウラギンシジミ

76. 6. 27 多良山系五家原岳 1♂吸水

38 アサギマダラ

75. 5. 25 多良山系とどろきの滝 1♂ (I) シロツメクサ
76. 8. 21 長崎市岩屋山 1♀が林床に生えているオオカモメツルの回りを飛び回っていたが、そのうち1本の株におり、尾端を曲げたかと思うと飛び去った。あとで見ると葉裏に1卵が産付され、これ以外に1葉につき1個計6卵と、2令幼虫1exが見つかった。
77. 6. 5 多良山系金泉寺 アサミ 1ex
- 39 ウラギンスジヒョウモン
68. 6. 16 長崎市小江原町 ウツボグサ 1ex
72. 7. 7 " こしき岩 ウツボグサ 1ex
75. 7. 1 " 西山町 ネズミモチ 1♂
7. 2 " こしき岩 ウツボグサ 1ex (III)
77. 10. 10 福江島富江町 ソバ 1ex (I)
- 40 ミドリヒョウモン
76. 6. 27 多良山系五家原岳 アサミ 多数 (IV)
- 41 ウラギンヒョウモン
76. 6. 27 多良山系五家原岳 アサミ 多数 (IV-III)
- 42 ツマゲロヒョウモン
68. 7. 12 長崎市岩屋町 アサミ 1ex
72. 7. 7 " こしき岩 ウツボグサ 1ex
10. 14 " 住吉町 キク、トウワタ 各1♀
75. 4. 7 長崎市滝ノ観音 11h13mに1♂ (IV) が凝灰岩の石の上におり翅をほぼ平行から150°くらいにひらいて静止していた。翅は最も日光が効率よく当たるように向いており、モンシロチョウが近くを通つても追尾するけはいはなかつたので、おそらく占有行動ではなかつた。
5. 20 福江市五島空港 ウンシュウミカン 1♂ (II)
6. 29 長崎市こしき岩 ウツボグサ 1ex (IV)
6. 29 " 西山町 ネズミモチ 1♂
7. 2 " こしき岩 ウツボグサ 多数 (I-II)
76. 6. 27 多良山系五家原岳 アサミ 多数 (I-II)
77. 8. 14 長崎市中里町 荒れた広場 (大小の石が散在し、土で被われている) を1♀が飛び回っていた。カタバミの葉上や石と石との間のすきま (日影になっている) 、コミカンソウ、路面にお

りては 端を曲げる動作をしていた。2:30~35までの間に観察していたが、確実に産卵し卵卵を観察できたのはカタバミの葉裏の1卵だけであった。その近くにはスミレ科植物は1本もなかった。

- 77.10.10 福江島富江町 ソバ 多数 (I-II)
- 43 イテモンジチ ウ
77.6.4 多良山系黒木郷 スイカズラ、ノリウツギ 多数 (I-II)
- 44 コミスジ
75.6.1 多良山系とどろきの滝 エゴノキ 1ex、ウツギ 1ex
76.5.8 " 黒木郷 ツクシウツギ 多数
77.6.4 " " スイカズラ、ノリウツギ 多数 (II)
10.10 福江島富江町 ソバ 1ex (II)
- 45 サカハチョウ
72.5.2 多良山系黒木郷 2♂吸水中
76.8.18 島原市 山 ヒヨドリバナ 1ex
77.6.4 多良山系黒木郷 コアカソより4令幼虫
- 46 キタテハ
68.6.6 長崎市大橋町 イタドリ 1ex
10.23 住吉町 キク 1ex
77.10.10 福江島富江町 ソバ 多数 (III)
- 47 ルリタテハ
75.6.22 長崎市岩屋山 サルトリイバラで卵多数、1令1ex、2令2exsがみられた。
8.10 五島列島若松島龍観音 サルトリイバラの葉表に卵殻1個が見られた。
- 48 ヒメアカタテハ
76.4.22 長崎市金比羅山 1♀ (II) が飛び回っていた。越冬後の個体らしく、やや古びていた。
77.10.10 福江島富江町 ヒャクニチソウ、ソバ 多数 (II-IV)
- 49 アカタテハ
72.11.19 長崎市住吉町 カラムシに3令幼虫1exが造巢していた。また Pml:10には1♀がカラムシの回りを盛んに飛び回りながら、葉表葉脈上に1卵ずつ、計5~6個産卵していた。この頃はカラムシはほとんど枯れておらず、青々としていた。当日は曇であったが、非常に暖かった。

75. 3. 8 長崎市西山町 Am8:15に1頭がアンテナを前につき出して約30°
ほどひらき、体軸と平行になるようにしていた。翅はほぼ平行
に開き、太陽がもつとも効率よく当たるようにしていた。
7. 1 " 西山町 マサキ 2exs
76. 7. 18 南高来郡田代町 クヌギの樹液 1ex
77. 8. 14 長崎市こしき岩 非常に翅がやぶれ、汚損した舎が筆者の体の
回りを回り始めたかと思うと、カメラの合皮ケースの上におり
た。(pml:48) そして約2分間、口吻をくつつけて吸汁(あ
まり汗は出ていなかったと思う)し、飛び上がり、ヨモギの
上に降りた。すぐ飛び上がり、筆者の体の回りを再び飛び回つ
たのち、右そでのYシャツの上におりて口吻を伸ばし、1分間吸
汗したのち、姿を消した。
77. 8. 17 福江市住吉神社 ♀がカラムシの周りを飛びまわりながら、1
卵産付(葉表)
10. 10 福江島葛江町 ソバ 1ex (IV)
- 50 スミナガシ
76. 8. 18 島原市眉山 クヌギの樹液 1♂ (Ⅲ)
77. 6. 4 多良山系黒木郷 スダジイの樹液 1ex
- 51 コムラサキ
75. 6. 10 島原市島原農業高校 クヌギの樹液を吸汁 多数
77. 8. 12 長崎市中里町 クヌギの樹液を吸汁 2♂ (I-Ⅱ)
- 52 ゴマダラチョウ
76. 8. 18 島原市眉山 1♀がエノキの葉裏に1卵産付
8. 18 " " クヌギの樹液 1♂ (IV)
- 53 ヒメウラナミジャノメ
76. 3. 27 長崎市西山町 アブラナ 1♂ (Ⅲ)
4. 28 " 中里町 アブラナ 1♀ (IV)
8. 23 " 岩屋山 ハナトラノオ 1ex
- 54 ウラナミジャノメ
75. 5. 20 福江市五島空港 ウンシュウミカン 1ex (I-Ⅱ)
- 55 サトキマダラヒカゲ 76. 8. 18 島原市眉山 クヌギの樹液 多数 (I-Ⅱ)
- 56 クロコノマ 76. 8. 18 島原市眉山 クヌギの樹液 2♀ (Ⅲ)
- (えじま・まさお 対馬高校)

長崎県生物学会対馬支部

設立の趣旨：長崎県生物学会は1971年より、県下各地の総合学術調査や各種生物関係書籍の出版を通し、生物研究の浸透、普及、生物相の解明を行なってきた。1974～75年の対馬学術調査後、対馬に在住する者がそれをさらに進展させ、学会発展に寄与できればと考えていたが、生物調査を行なっている者は少なく、また島内に広く散っているためそれも仲々難しいと思われた。

本年度（1977年）になり、学会本部の要請もあり、対馬支部を発足させ、生物調査、研究の普及を行なうようになった。

設立までの経過

・4月9日 発足のための準備、打ち合わせ会（江島氏宅）

参加者：岡部、正島、長瀬、邑上、境、江島

発足させる方向で検討することを決定

また 1、趣旨書を関係者に配付し、入会（入支部）を呼びかける

2、会誌を年2回発行する

3、2ヶ月に1回会合をもち、研究成果を発表しあう

・4月23日 発足のための準備、打ち合わせ会（江島氏宅）

参加者：国分、江島、境

決定事項

1、組織としての位置づけを、本部と相談して決める

2、案内状は近日中に発送する（担当 国分）

3、役員原案として下記を設立総会にかける

a 支部長：長瀬

b 事務局：江島、邑上

c 編集：国分、境

d 庶務：永留、修行、国分（広報）

4、事務局を対馬高校におく

・6月5日 設立趣旨書及び入会案内状を発送（国分）

・6月25日 設立総会（対馬高校 pm:3:00～5:00）

参加者 岡部、国分、修業、永留、邑上、江島

決定事項

1、上記役員が原案通り承認さる

2、支部会費 年1500円

- 3、会誌は年2回発行する
- 4、会合は2ヶ月に1回行なう
- 5、活動内容として下記に重点をおく
 - a. 対馬の生物相の調査
 - b. 島民に対する生物への関心を高める活動を行なう
 - c. 生物保護に関する広報活動を行なう
- 6、会員組織を下記とする
 - a. 正会員：対馬在住者
 - b. 賛助会員：長崎県生物学会々員で対馬以外の在住者
 - c. 準会員：対馬以外の在住者で一定限の支部会費を納入した者
 - d. a～cとも一定限の支部会費を納入するものとする（前納を原則とする）。ただしa～c会員とも、会誌に投稿し、会誌の配付を受ける。

支部会員名簿 (ABC順)

氏名	住所	TEL	勤務先
江島 正郎		09209-2-3547	
橋口 文雄			
平山 俊郎			
国分 英俊			
邑上 益朗		09209-2-4140	
村田 博			
長瀬 節雄		09209-2-4622	
永留 浩			
岡部 虎男		09209-2-3167	
境 良朗			
修行 寛			
県外			
吉田喜美明			

編集後記

本支部創立の話し合いを行なったのが、ちょうど1年前でしたが、やつと会としての体裁も、ととのい、ここに会誌第1号を発刊することができました。

原稿をご送付下さった方々及び、本支部創立に当たり色々のご助力たまわった県生物学会各位には支部を代表してお礼申し上げます。今後とも引き続き会誌を発行する予定ですが、島内に限らずご投稿下さいますようお願いいたします。

(編集者)

ヒトツバタゴ Vol. 1 No. 1

—— 長崎県生物学会対馬支部報 ——

- ・ 発行所：長崎県生物学会対馬支部
(長崎県下県郡厳原町棧原33)
県立対馬高校内)
- ・ 発行月日：1978年4月30日
- ・ 編集者：国分 英俊、長瀬 節雄、江島 正郎

目次

ページ

・ 創刊にあたって	支部長：長瀬 節雄	1
・ セッコクの黄花と対馬唯一の交配種		1
大博（タイハク）について	岡部 虎男	2-3
・ 厳原町植物の概要（1）（有明山）	長瀬 節雄	3-4
・ 対馬のラン科植物目録	國分 英俊	5-9
・ 対馬産ヒトツバタゴの形態について	邑上 益朗	10-14
・ 対馬のトンボ（1）	境 良朗	15-18
・ 近年長崎県内で観察した蝶類生態記録	江島 正郎	19-32
・ 支部より		33-34